

○5番（帰山寿憲君） 5番、帰山です。きょうは県立高校の受験日であり、福井大学も合格発表の日です。既に終了しているかもしれませんが、高校受験の方には御健闘、大学受験の方には朗報が届くことをお祈り申し上げます。

さて、当市の新年度予算では、新体育館建設関係予算とともに、平成30年国体に向けて競技力のさらなる向上を目指し、選手強化費が盛り込まれています。勝山市の選手の近年の活躍には目をみはるものがありますが、有効に活用し、次期福井国体に向けていただくだけでなく、さまざまな種目や形での活躍を期待したいものです。

また、今3月定例会は、オリンピックイヤーである4年に一度のうるう年の2月29日に初日を迎えました。ロンドンオリンピックも間近となりました。先日のオリンピック代表選考を兼ねた東京マラソンでは、久しぶりの好記録が出たようです。ことしの夏は、熱い日本選手の戦いを期待したいなと思います。

さて、新年度予算には新体育館建設、平泉寺関係、環境自治体会議等の、今後多年度にわたる事業や大規模イベント等の予算、救助工作車の導入、ペーパーレス会議対応のための機器導入などハード整備予算、にこにこ妊婦奨励金、音楽の公演、青少年健全育成計画の作成等、きめ細かな事業予算等も計上されました。市債の借りかえ等の財政的な措置も盛り込まれています。今後も市政の運営に大いに期待するものです。

さて、3月定例会に当たり、4点について伺います。

最初に、勝山市の教育のあり方について伺います。

現在進行形ですが、高校再編後の状況について伺います。福井県立高校の一般入学試験は、きょうから始まっています。奥越明成高校も2回目の入試を迎え、勝山南高校はいよいよ最後の1年を迎え、養護学校の建設の槌音が響くこととなります。そして、奥越明成高校への通学者は今年度よりさらにふえることとなります。昨年、通学バスの増便や時刻表の調整は行われました。通学のためのバス運賃には、大野市からと勝山市からでは大きな差があり、勝山市の父兄には大きな負担となっている可能性があります。市としてさらなる支援強化ができないか伺います。

また、奥越の高校再編とともに勝山高校の定員が見直されましたが、昨年は大幅な定員割れとなりました。ことしの出願状況も注目していました。結果は、残念ながら約20人定員を下回り、競争率は0.9倍にも届かない結果となりました。資料によると、勝山市内からの同校への進学率が落ちているわけではないようです。現状の進学状況からは、5年後には同校への受験者数が2けたに落ち込む可能性も見えてきています。当面1、2年は現在の定員が維持され、現在の状況が継続されと考えますが、高校で100人を割り込むことは、高校としての存続はともかく、高校としての魅力が薄れることや普通科高校としては基盤が小さ過ぎるおそれがあり、学力の維持にも不安を感じます。この問題は、本来県立高校ですから同校で対応すべき問題とは考えますが、今後は勝山市唯一の高等教育機関となり、当市の教育環境の中では重要な位置づけとなります。当市にとっては、社会保険病院と同様の必要性があるとも考えられ、中学校での進路指導強化や市外からの通学支援など、市としても対応を考える時期ではないでしょうか。この点について伺います。

続いて、学校ICTの進捗状況について伺います。

IT、インフォメーションテクノロジーとICT、インフォメーションコミュニケーションテクノロジーが一般的に使われだして久しくなります。違いは出所であるMETIとMICのようで、意味する

ところは基本的に一緒ですからどちらでもいいようなものなのですが、これも所管争いの弊害かもしれません。とりあえず総務省関係はICTのようですし、何となく学校関係にはICTが適当であるような気がします。今さらですが、これからの学校では技術ではなく、利用しての教育が進むこととなります。さて、新年度予算において中学校の各教室に大型テレビと実物投影機の予算が計上されています。やや機能は異なりますが、以前に電子黒板が各小・中学校に配備されましたが、その活用状況を伺います。

実は先日、奈良女子大学附属小学校の学習研究会に参加する機会を得ました。同校は1学年2クラス、児童数約420人の小学校です。当日は研究対象となるクラスを含めすべてのクラスの授業を参観することができました。そして、すべてのクラスで電子黒板もしくは大型ディスプレイを用いた授業が進められていました。また、高学年ではグループごとにネットブックも配備され活用されていました。先生が黒板に向かう時間が少なくなる、発表の自由度が大きくなるなど重要性を感じることができました。当市では、中学校では新年度に予算化されましたが、使用状況からは小学校への配備がより有効であるのではないかと考えます。いかがでしょうか。また、小学校高学年以降においては、ネットブック、またはタブレット型端末とのセットがより有効であるように感じました。お考えを伺います。

さて、同校の教育方針は広く全国に知られており、今回、私は初日金曜日のみの参加となりましたが、確認できただけでも北は東京都から南は鹿児島県まで参加者があり、同校の発表では延べ1,648名の参加者があったようです。午後の講演時には同校の体育館に参加者がおさまり切らず、多目的室、集会室にサテライトを設ける状況でした。同校の教育方法に対する評価はさまざまですが、戦前から合科学習の流れをもとに、自律的に学ぶ子どもを育てることを基本とする指導が実践されているようです。

今回もほとんどの教室でグループ形式で授業が進められており、前に立ち授業を進めていくのは先生ではなく児童である。その間に答えるのも、静かに手を挙げる子どもたちであり、さらに質問を投げかけていくのも回答していくのも同様でした。黒板に向かう必要性が少ない先生は、常に児童に向い進行を補助していました。驚くべきことに、1年生の教室においても既にこの方式が授業で行われていました。一例を挙げると、静電気に関する授業では、進行役の児童が、静電気の起きるときと起こし方を問いかけ、プラスチックの利用で起こせるとの回答があり、それに対し、さらに別の児童からプラスチックで電池ができないかとの問いが出されました。無実の課題とはなりましたが、プラスチックは我々大人には絶縁体ですが、その柔軟な創造性には目をみはるものがありました。ちなみにプラスチック電池は、現在、大容量電池として研究が進められています。この教育方法には、勝山市としても見習うべき点が多くあると考えますが、現状を踏まえた上でお答えをいただきたいと思えます。

実は同校の教育方針の基礎を築かれた方が木下竹次氏です。教育関係者の方は御存じかと思いますが、自律学習、合科学習の創始者として有名であり、学習言論の著者としても広く知られています。木下氏は明治5年の生まれで、奈良女子大学の前身である奈良師範学校や鹿児島師範学校等で活躍した後、昭和21年に75歳で生涯を終えています。木下氏は、勝山市上元祿の生まれであり、旧姓は川崎です。後に木下家に養子に入っています。当時の成器小学校を卒業した後、しばらくして福井師範学校に進んでいます。現在とは教育体系がことなるためわかりにくい点もありますが、この間に現在の平泉寺小学校において教師としての道をスタートさせておられます。

奈良女子大学附属小学校では、校長は音楽の先生の兼任のため、実質的責任者は副校長となります。現在の副校長、梶田萬理子先生は、以前に当市でも教壇に立たれています。当市としても、この点など

も含め、木下氏の功績等を整理し活用の上、勝山型教育を確立して子育ての先進地としてPRすべきではないでしょうか。今回は都合により2日目は参加できませんでしたが、現地で福井県の先生の姿をお見かけすることはありませんでした。新年度予算にも研究会参加費が計上されていますが、さらに支援体制を強化すべきではないかと考えます。お考えを伺います。

2番目に、社会資本の維持管理について伺います。

3年続けての大雪により、以前にも増して道路の傷みが、市道、国県道ともに激しいものがあります。本年度も修繕費、維持管理費がそれぞれほぼ従来どおりの予算が計上されています。以前に道路の舗装、維持管理計画についてお伺いしたいことがあります。その当時、市道の総延長は約440キロメートルであり、修繕予定距離は年間約2.2キロメートルのお答えをいただきました。また、さまざまな状況や必要な財源等も見きわめつつ、今後も状況に応じて維持管理を行う。国土交通省の指針は承知しており、さらに道路の維持管理に努めたい旨の回答がありました。

ところで国土交通省では、昨年11月に日本再生重点化措置による「持続可能で活力ある国土・地域づくり」の推進についてを公表して、安全と安心の確保の項目の中において社会資本の的確な維持管理・更新の必要性を明記しています。そして、戦略的な維持管理・更新計画の策定と具体化を求めています。また、総務省も本年2月に、分野を限ってですが、調査結果をもとに勧告を行っています。いずれも社会資本の維持管理・更新需要の増大への懸念、つまり需要と予算のバランスがとれなくなる可能性をもとに、維持管理計画の重要性を訴え、早期の対応を求めています。現在の状況と今後の方針を伺います。

さらにその中で、施設の長寿命化、ライフサイクルコストの低減、予防保全と事後保全の適正な使い分けも求めています。中でも予防保全は人における健康増進による健康の維持と医療費の軽減と同様の効果を社会資本にもたらすものと考えています。予防保全型管理は既に導入している例も多く、その手法は確立されており、当市でも進めるPDCAサイクルを確立することにもなります。今後も大幅な経済成長が見込めない以上、限られた予算を有効活用するためには、予防保全管理は必須と考えます。以前導入を提案しましたアセットマネジメントも、近年さらに必要性を増してきています。勝山市でも、下水道については、平成20年度より国の支援により長寿命化対策が実施されていますが、建物や道路等についても長寿命化計画を早急に立て、対策をとるべきではないかと考えますが、お考えを伺います。また、実施に向けての課題がどこにあるのかもあわせて伺います。

また、一般に建築物等の寿命は、使用状況、使用方法に依存する部分があります。その点において、ハード的な整備だけではなく、維持管理の手引きの整備や管理講習などソフト的な対応も、建物の長寿命化だけでなく建物の全生涯コスト、一般に言われるライフサイクルコストの低減にも効果があると考えます。お考えを伺います。

来年度、教育会館の耐震補強工事とともにリフレッシュ工事も予定されています。市有建物においては、耐震補強工事の施工時においては、同時に長寿命化を目指し、補修工事も行われていると考えますが、耐震補強工事のみであったケースがなかったか、あれば耐震補強工事を必要としない建物への対応とともに今後の方針を伺います。

また、直接長寿命化とは関連しませんが、一部公共建物において全館一斉放送ができない建物や、放送設備の老朽化が目立つ建物があるようです。早急な改善を要望します。

3番目に、観光と文化振興策について伺います。

本年後半には、いよいよ平泉寺のガイドンス施設がまほろばとして開館します。環境自治体会議に間に合わないのは残念ですが、今後の活用に大いに期待するところです。さて、平泉寺に関しては新年度予算にさまざまな形で予算が計上されていますが、開館に向け、どのようなプロモーションを行う予定なのかお伺いいたします。

今年、福井県の戦略や新たな施設の開館、講演範囲の拡大等により、平泉寺、恐竜博物館、ジオパークともに新たな展開を迎えます。第5次総合計画の中では、多種多様な観光資源を有機的に結ぶとうたっています。確かに長期的な展望ではその連携は必須ですが、現在の状況は個々のセールスポイントが多くあるため、連携にこだわり過ぎ、市民には施策の全体像が見えにくく、観光客には旅行先として焦点の定まらない状況ではないかと思われまます。勝山には、恐竜、環境、クリーン、エコミュージアムの町などさまざまな形容詞がつかますが、大きい誘客数を誇る観光地は、多くの観光施設を抱えつつも、そのイメージは明確なものがあります。

現在、当市の2大集客施設である恐竜博物館、スキージャンプにしても、恐竜、アウトドアの拠点として可能性を秘めるものの、まだ発展途上であり、集客数は県内の東尋坊にさえ遠く及びません。両施設とも今後いかに入り込み客数をふやすか、収益を上げるかに必死の状況です。各施設がこの集客数を増加させるためには、現在の来客者層というパイの大きさが限られた層以外から観光客を取り込まねばならないのではないかと。または、何とかパイを積み上げることも考えなければならないのではないかと。スキージャンプを例にとれば、アウトドア層以外にも視野を広げて文化面でも集客を図る、また同じ層でもエリアを拡大し、新たに外国人スキーヤー等の獲得を積み上げることを目指してみることはないかと思ひます。ある程度まで個々の施設でさらなる積み上げを図り、その中で各施設の連携を図り、総合的なボリュームを形成していけばよいのではないかと考えます。短期的には、横並びのアピールばかりではなく、施設ごとに突出した、今までとは異なる形でのセールスを展開することもありと思ひますが、御所見を伺いたしたいと思います。

飛び過ぎるのもどうかと思ひますが、意外性も観光要素の一つであると考えます。官製のセールスプロモーションには予算の即応性などの弱みがありますが、異業種取りまとめたプロモーションには可能性があると思ひます。

続いて、文化振興について伺ひます。

先般、大阪市長は、文化関係補助金の大幅カットを打ち出しました。個人的には単純に利益を生み出しにくい文化事業であろうとも、人間形成のためにも、教養をはぐくむ上でも、上質な文化と触れ合うことは必要であると思ひます。上質な文化は何であるかを広く考えればよいと思ひます。大阪では触れ合う機会も多いため異なる見解があるのかもしれませんが、ここ勝山では接する機会や触れ合う機会、発表の場はとて少ない状況です。この点については、新年度予算を見るとやや安心するところです。勝山市では、昨年新たにさまざまな文化系の活動が端緒につきました。また、各種コンクールで優秀な成績をおさめられた方もいますが、冒頭に述べた体育系とは異なり、支援や振興を受けにくい状況が見られます。今後の振興や支援を目指す上で、市としての方針を伺ひます。

最後に、出産支援体制の強化について伺ひます。

2月16日にすこやかにおいて、奥越地区の出産と医療に関する講演がありました。主な内容は、奥越地域の周産期医療の現状と今後の方針、社会保険病院の今後と出産基幹病院との連携についてでした。社会保険病院自体の今後にも不安が残りますが、その中で出産時の出産基幹病院までの距離に対する不

安の声が上がりました。通常、出産時の移動には自家用車もしくはタクシーを利用される方が多いようです。当然、相応な時間を要することになります。では、救急車の利用はどうでしょう。緊急性を考え、通常は利用されないようです。現在、勝山消防署は福井社会保険病院の前にあります。助産師の方が病院におられたとすれば、すぐに乗車することもできます。法的問題はわかりませんが、救急車であれば、当然救急搬送ができますから、渋滞等による心配も少なく済みます。そして何より、簡易ながら横になっていけるのは大きいと思います。また安心感を持てるのも大きいと思います。私が経験がありませんので、多分そうだと思います。病院到着時のことを考えて、多少とおっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、それはそれで無事であれば何よりです。

当日、小辻先生もおっしゃいましたが、産婦人科医不足の発端となったように、出産は日本での通常の認識よりもはるかに危険であり、人命にかかわる部分です。担当部課が複数になりますが、前向きな御回答をいただけることを期待いたします。

以上、4項目につきまして、まず御回答をいただきたいと思います。

○議長（松村治門君） 山岸市長。

（市長 山岸正裕君 登壇）

○市長（山岸正裕君） まず私のほうから、観光と文化振興策についてお答えをいたします。

白山平泉寺歴史探遊館まほろばの開館に向けてのプロモーションであります。白山平泉寺は、白山国立公園に代表される貴重な自然遺産や、中世の宗教都市がそのまま地中に保存された歴史遺産として全国に誇れるものであります。こういった平泉寺の魅力をわかりやすく紹介し、文化財を生かした学習や交流、地域づくりの拠点施設が歴史探遊館まほろばであります。このまほろばは、平成24年度に展示工事や周囲の環境整備工事を行い、10月オープンを目指しております。今後、オープンに向けて、市のホームページやポスター、チラシ等でその情報を機会あるごとにPRしていきたいと考えております。その一環といたしまして、4月17日にアジアで初めてユネスコの事務局長を務められた松浦晃一郎氏をお招きをいたしまして、世界遺産講演会や5月に開催される環境自治体会議でのフィールドワークを活用して、平泉寺を広く紹介してまいります。

さらに平成24年度から3カ年事業のふるさと創造プロジェクトに取り組み、平泉寺や勝山市のすばらしさを多くの方々がじかに触れることができる、ソフトとハード整備を進めていきたいと考えております。

次に、第5次総合計画に沿って平成23年6月に策定した勝山市観光振興ビジョンでは、観光振興戦略の一つとして、「恵まれた観光資源と施設の魅力をさらに高めて、連携する仕組みをつくり、相乗効果を発揮する。」という項目を設定しております。戦略を進めていくに当たり、観光客のニーズが異なる各観光施設同士をつなげて連携させるために、さまざまな施策を短期に展開していく必要があります。また、観光客にとっては、連携を進めていくことによって、現在複層的な勝山のイメージがより鮮明になると考えております。

新年度は、各観光施設の連携を強めるために、今年度に引き続き定期的に観光施策等連絡会議を開催し、Webを活用した宿泊客拡大プロモーションの実施、大型連休での恐竜博物館前や布市観光トイレでの臨時観光案内所の設置、秋の観光PRチラシ作成などイベント情報の共有や共同での観光PRを実施し、各施設が情報を発信することにより相乗効果が出るよう市内誘客を進めてまいります。また、7月には各観光施設、関係機関と協力して横浜市で「かつやまフェア」を開催し、首都圏で勝山をPRい

たします。

一方、連携を進めるだけではなくて、並行して個々の施設等の魅力を高めていくことは必要不可欠であると考えております。新年度に向けて、スキージャム勝山、福井県立恐竜博物館等もそれぞれ誘客のための戦略を練っております。市といたしましても、平泉寺ガイドンス施設のオープン、これはまほろばでありますけれども、それと「越前大仏もんぜん市」の開催、市街地の魅力アップ、まちの駅ネットワークの活性化などにより、個々の魅力を高めて誘客につなげてまいります。

さらに11月に就任しました観光プロデューサーを中心に、食による観光誘客、魅力ある着地型観光ルートの設定、Webを活用した情報発信機能の構築、メディアパブリシティの活用による情報発信など、今までの発想にはない新しいアイデアの現実化に向けて進めていくよう検討しているところです。新年度は、これらの施策を実施することによりまして観光誘客を進め、引き続き年間観光消費額等の増加を目指してまいります。

○議長（松村治門君） 梅田教育長。

（教育長 梅田幸重君 登壇）

○教育長（梅田幸重君） 勝山市の教育のあり方について、三つの御質問をいただきました。

最初に、高校再編後の状況に関しまして、まず高校再編に伴うバス路線の強化と支援についてお答えいたします。

奥越明成高校の開校に合わせて、昨年4月から、朝、大野方面に向かうバスを1便ふやし、大野高校及び奥越明成高校に通学する生徒がバスで通学できるよう対応しているところであります。1便増便したバスの運行に必要な経費については、福井県において負担をいただいておりますが、現在のところ乗り残しが生じるなどの問題はないとの報告を受けております。また、大野方面への通学に伴うバス運賃の負担支援につきましては、一方で福井方面の高校に通う生徒の負担額がより多いということを考えますと、難しい課題ではなかろうかと考えております。今後さらに勝山からの大野への通学生がふえた場合における対応については、利用状況等を把握し、関係機関と協議し検討してまいりたいと考えます。

次に、勝山高校への進学に関してであります。

市の教育委員会と市内3中学校及び勝山高校、勝山南高校、奥越明成高校の各校長で構成する中学校・高等学校連絡協議会というものを年4回開催しております。そして、その中で進学についての情報交換と対応策の協議を行っているところであります。特に昨年は、奥越明成高校開校に伴いまして、勝山高校の入学定員がふえ、適切な入学志願者数を確保すべく協議を重ねたところであります。具体的には、各中学校はよりきめ細かな進路指導に努めること、勝山高校においてもより多くの生徒を受け入れるための方策を進めることなど、相互に努力することとしたところであります。

しかしながら、中学校の生徒数自体が減少するとともに、近年の職業系高校等への志望傾向が強くなる中で、昨年は入学者の全体数そのものは前年並みとなったものの、定員には21名届かず、そしてことしも同様な状況にあると、こういった状況についてはまことに残念なことであると考えております。当然のことながら、勝山高校自体もそうした状況を打開しなければならないとの強い気持ちを持っており、勝山市としても今後より多くの勝山の生徒が勝山高校へ進学するよう、中学校における教育と指導の充実にさらに力を入れていきたいと考えております。

なお、勝山高校への近隣市町からの入学者に対する通学支援につきましては、勝高への入学者をふやす一つ的手段として考えられますけれども、その是非等については今後の調査研究課題にしていきたい

と思います。

二つ目の御質問の学校ICTの進捗状況についてお答えいたします。

まずは平成21年度に小・中学校に1台ずつ配備した電子黒板については、画面上でコンピューターを直接操作できる、写真や画像など、コンピューター画面のどこにでも書き込みができる、画面も書き込んだ内容も簡単に保存し再生できるといった機能がありまして、わかる授業の推進に大変有効な道具であります。各学校では特別教室を中心に配置し、小学校外国語活動の英語ノートデジタル版や理科・社会デジタル教科書の使用、中学校国語での教材などに活用しているところであります。

次に、新年度予算において計画している中学校への大型テレビ等の配置についてであります。

これまで学校では、コンピューターの画面、写真、ビデオ、デジタル教科書などの教材を、アナログテレビや電子黒板などを準備してそれぞれに映しており、作業効率が悪い状態でごさいます。また、平成22年度から福井県視聴覚研究大会の研究指定を受け、村岡小学校、中部中学校、さらに中部幼稚園で2年間研究に取り組み、その研究成果として、書画カメラ等で教科書、ノート、作品などを大きく映して、児童生徒の発表に活用する授業は、ほかの児童生徒の集中力を高めるなどの効果が非常に大きいということ、そして映し出したものを焦点化したりすることで、指導者の指示がわかりやすくなったといった非常にいい評価が得られたわけでごさいます。そこで、これらを踏まえまして、各教室において教材、大型テレビ、校内LANを利用することで、効率的でわかる授業の推進のために配置したいというふうに考えているわけでごさいます。配置につきましては、高度な内容を学習する中学校で、まず先に配備いたしまして、その活用状況や今後の財政状況をにらみながら、小学校での配備も検討していきたいというふうに考えております。

次に、ネットブックまたはタブレット端末とのセットにつきましては、これらを授業に利用する研究は進んでおります。ただ学校の導入には、ハード面の整備と、それに伴うまた効果的なソフト面の同時整備が必要でごさいます。現在、ハード面は急速に進歩・普及が進んでいるわけでごさいます。ソフト面では、例えば、デジタル教科書は教師用にはありますが、児童生徒用のデジタル教科書というものは出ていないといった、ソフト面での開発がまだ十分ではないのではないかといいながら、今後の検討課題とさせていただきますと考えております。

最後に、勝山市の学校教育の特徴に関して、木下竹次先生のお話をいただきました。木下竹次先生は、大正、昭和前期の新教育運動の第一人者で、日本の初等教育に大変貢献した方でごさいます。特に、伸びる、伸ばす、きたえるの方針のもとに、自律的学習の研究と実践を推し進めました。勝山市出身ということで、現在、成器西小学校には先生の著書や日記が保存されております。また、各学校にも先生の額が掲示されているほか、これまでに勝山市史、広報で紹介をしております。ただ現在、先生の功績等が十分整理されていないというのが現状でごさいます。今後の課題であろうと考えております。

なお、お話の中にごさいました奈良女子大学附属小学校の学習研究会、ここへは勝山の学校からも今までに多くの教員が参加し、研究を深め、それを持ち帰りまして授業の参考にしてごさいます。今後も必要に応じて当該研究会への参加をしていきたいと考えております。

○議長（松村治門君） 大林建設部長。

（建設部長 大林市一君 登壇）

○建設部長（大林市一君） 次に、社会資本の維持管理についてお答えをいたします。

過去から現在にわたって築き上げてきました社会資本は膨大な量に達し、特に高度経済成長期に集中

的に整備された道路、橋梁、公園など多くの社会資本は、現在、更新の時期を迎えようとしております。このような状況の中で、御質問の道路の舗装につきましても、2年前から始めました各地区との市長となんでも語ろう会の場において、地区の要望をお聞きし、特に生活に直接かかわる道路や水路の修繕計画を立て、積極的に取り組んでいるところです。

道路の維持管理においては、国土交通省より示されている道路管理に関する通達類のほかに、道路維持修繕要綱等により、舗装の段差状況やひび割れ状況、わだち掘れなどについて目視により判断し、その程度が小さい時点で小規模な修繕により予防保全的な維持管理を行い、道路全体の延命化を図っております。さらに更新計画を立て、毎年度の維持更新費用を平準化していく必要もあります。今後も市の単独費だけでなく、社会資本整備総合交付金事業や道整備交付金事業などを活用し、道路の維持管理に努めていきたいと考えております。

国土交通省では、安全・安心の確保の面から社会資本の重点的で効率的な維持管理・更新投資を行っていくための方策を推進・検討する必要があるとしており、橋梁、公園については長寿命化計画の策定に対し、交付金事業による補助対象としていることから、道路の維持管理・更新計画の策定についても国の支援措置を要望していきたいと考えております。

次に、長寿命化・ローコスト化についての耐震補強工事の御質問にお答えをいたします。

市では、これまで市有建築物の耐震化率を90%以上とすることを目標に、耐震性能の低いと判断される建築物の耐震補強工事を優先して進めてきましたが、大規模改修の必要のある建物については、耐震補強工事と同時に予算の範囲内でリフレッシュ工事を進めていきます。また、これまで耐震補強工事を実施した建物で耐震化のみを行い、リフレッシュ工事を実施していない建物については、公共施設における放送設備等の更新も含めまして、必要に応じてリフレッシュ工事で取り組んでまいります。

次に、社会資本の維持管理についての中の長寿命化・ローコスト化についてお答えをいたします。

勝山市では、一定規模以上の建築物については、建築基準法により義務づけられた特殊建築物定期調査・報告を、一級建築士もしくは二級建築士、または特殊建築物等調査資格者により、建築物の用途別に1年または2年ごとに行っており、建築物の劣化・損傷箇所を早期に発見し、計画的に修繕する体制となっております。特殊建築物以外の小規模建築物については、平成19年度から総務課を中心に、施設を管理している担当職員や施設員を対象に、議員の提案にもございました建築物の維持管理の手引きをもとに説明会を実施しており、施設管理者が日常において適正に管理することにより、建築物が長く安全に使用できるよう努めております。

これらのように建築物を定期的に点検することで、建築物の正常な状態を把握するとともに、異常の兆候をいち早く発見し適切な措置をとることにより早期劣化や老朽化の予防が期待でき、建物を良好な状態で維持管理することで公共建築物の長寿命化を推進し、そのことがライフサイクルコストの低減につながるものと考えております。

○議長（松村治門君） 苺安生涯学習・スポーツ課長。

（生涯学習・スポーツ課長 苺安和幸君 登壇）

○生涯学習・スポーツ課長（苺安和幸君） 次に、観光と文化振興策についてのうち、文化振興策についてお答えいたします。

第5次勝山市総合計画では、豊かな心と感性をはぐくむ文化芸術活動の充実を掲げております。その一つとして、市民会館や教育会館を主会場に毎年開催いたしております市民総合文化祭については、市



民の文化芸術活動の成果を発表する機会として参加団体も年々増加し、今年度は展示部門と芸能部門をあわせて100団体が参加いたしております。このことは多くの市民の文化芸術に対する強い関心と興味のあらわれであると考えております。また、市では市民にすぐれた文化芸術に接する機会を提供し、鑑賞力の醸成に努め、市民文化の向上を図るため、今年度、財団法人自治総合センターの支援を得て、宝くじ文化講演として指揮者青島広志と東京フィルハーモニー交響楽団による弦楽合奏団コンサートを開催し、24年度でもシエナ・ウインド・オーケストラによるコンサートを開催する予定であります。

さらに、市内の70を超える文化団体が加盟している勝山市文化協会では、文化芸術の向上に努め、文化の香り高い潤いのあるまちづくりを目指して、芸術劇場または文化講演会を開催いたしております。平成22年度には、芸術劇場としてよしもと新喜劇バラエティーショー、23年度にはNHK大河ドラマの脚本家であります田淵久美子氏による文化講演会を開催し、多くの市民に鑑賞していただきました。24年度には、白山平泉寺歴史探遊館の開館を記念しての文化講演会を開催する予定をしております。市では、この芸術劇場、文化講演会事業には継続して助成しており、今後も支援を続けてまいります。

一方、文化活動に熱心に取り組み、全国大会等に出場または参加する小・中学生の団体や個人に対しては、その出場費の一部を助成し、一層の研さんへの支援を行っているところであります。今後、市民の文化芸術活動がさらに活性化するよう、その方策について研究してまいりたいと考えております。

○議長（松村治門君） 堂山消防署長。

（消防署長 堂山信一君 登壇）

○消防署長（堂山信一君） 出産支援体制の強化についての消防署における救急車の利用についてお答えいたします。

昨年の救急出動789件のうち約25%は、管外の医療機関への搬送となっております。そのうち管内の医療機関から管外の医療機関へ搬送する場合は、医師による管外搬送依頼書により医師か看護師の同乗をお願いして搬送を実施しています。出産時において、医師の判断により搬送要請のあった場合には、救急搬送業務として対応をします。

また、自宅において破水等、緊急な出産事例が発生した場合に、患者自身のかかりつけの希望病院として、直接管外の医療機関へ搬送することは救急搬送業務と考えております。

○議長（松村治門君） 竹内健康長寿課長。

（健康長寿課長 竹内富美子君 登壇）

○健康長寿課長（竹内富美子君） 同じく出産支援体制の強化についてお答えします。

福井社会保険病院は、平成19年4月から分娩ができなくなったため、安心して出産できるよう福井大学医学部附属病院と出産支援連携体制を構築し、妊婦健診は近くて利便性がある福井社会保険病院で、出産は高度な医療が受けられる福井大学医学部附属病院等県内の医療機関でという体制をとっています。

平成24年1月からは、福井大学医学部附属病院の医師が福井社会保険病院で診察する体制となり、連携体制がより強化され、緊急時には福井社会保険病院から福井大学医学部附属病院に搬送する体制となっております。市といたしましては、平成24年度から出産連携支援にここに妊婦奨励金を支給し、出産支援連携体制の利用促進を図ります。そして、今後も利用者の方の声をお聞きしながら、安全で安心して出産できる体制を支援してまいりたいと存じます。

○議長（松村治門君） 5番。

（5番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○5番（帰山寿憲君） 若干何といたしますか、もう少しお伺いしたい部分がございますので伺いますけれども。

まず、奥越明成高校へのバス通学への補助の件ですけれども、福井へ通う方とのバランスがあるということでしたけれども、そうでしたらあっさり全部含めて面倒を見てしまえという考え方もできるわけなんですよね。もう一つは、大野・明成高校にかかる運賃が高いというのは、バス運賃制度の問題であって、大野からは安いと。勝山は広域バスゆえに市境を越えるゆえに高くなっていると。こういう制度の問題があるので、そのあたりが解消できないか、そのあたりの検討の余地がないかちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（松村治門君） 平沢生活環境課長。

（生活環境課長 平沢浩一郎君 登壇）

○生活環境課長（平沢浩一郎君） ただいま御質問のありました高校再編に伴う、バス路線の奥越明成高校に通う生徒の負担軽減ということで、バス路線の運賃の見直しができないかということについてお答えをいたします。

この点につきましては、かねてより議会でも御説明させていただいているように、大野市と県と協議をしているところであります。広域路線につきましては、距離によりまして運賃体系を決めておりまして、これについては大野市も同様でございます。大野市につきましては、勝山市が既に以前から進めています高齢者の運賃補助を、大野市も昨年4月から開始したところがございますが、当日の運賃につきましては、同様に距離によって運賃が決まっているという状況でございます。それぞれの市の負担金につきましては相当額を負担しておりまして、運賃を下げるということになりますと、それぞれの市の負担額がさらにふえるということになります。大野市は特に勝山市の約倍近くの負担金を広域路線に負担していることもございまして、勝山市だけが運賃改定をするということが制度上できませんので、今後さらにその交通については県も含めまして研究を重ねていきたいというふうに考えております。

○議長（松村治門君） 5番。

（5番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○5番（帰山寿憲君） 何か以前は、統一運賃か一律運賃か何かそういうのを一遍検討してみたいというような話もあったように思いますけれども、お話はわかりました。

高校の問題に関しましては、勝山市近辺に上位の大学がないということも一つ、進学を妨げる理由かなというふうにも思います。可能性が現在のところほとんどございませんので、その点については余り申し上げませんが、今後何としても、ちなみに私は勝山高校出身ではありませんので、母校愛とかそういう観点で言ってるわけではございません。純粹に勝山の高等教育機関の存続という点で危惧しておりますので、御考慮いただきたいと思います。

次に、学校ICTに関しまして、子どもたちへの対応というのは、例えば、現在、パソコンというのはスマートフォンとかタブ端末で無線系的高速ネットワークが利用されるようになりまして、情報端末としての地位はもうなくなりつつあるんですよね。単に処理機械と。いろんな絵を描くとか、エクセルで計算するとか、そういうふうな役目を今から担ってくると。そうなるくと、子どもたちにもその情報端末を扱う対応力というのは要求されるわけですけれども、そうなるると今度一転して先生にそういう対応力も当然求められるわけです。そのあたりの先生への指導というのはどのようになっておられるのかお伺いしたいと思います。

○議長（松村治門君） 梅田教育長。

（教育長 梅田幸重君 登壇）

○教育長（梅田幸重君） 今のお尋ねの、要するに I C T 関連の機器・教材等がどんどん普及していくと。その中で教員の能力をどうしているのかということだろうと思うんですけども、当然、これにつきましては県の教育委員会でいろんな形での教員に対する研修、これを進めております。それにあわせて、それをまた持ち帰りながら、各学校でそれぞれの学校の教員にまた指導をしているといった、そういった構図が一つございます。いずれにしましても、先端の技術についていくように、教員自身もみずから研さんを積みますけれども、その一つの研さんの場として、県あるいはまた市でのそういった研究会の場を設けていると、こういったことでございます。

○議長（松村治門君） 5 番。

（5 番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○5 番（帰山寿憲君） 先生には、ぜひとも最先端の技術をつけて、子どもたちの指導に当たっていただきたいと思います。

次に、木下竹次氏についてですが、西校にそういう資料があることは私も存じております。一部拝見したこともございます。ただ、伺うところによると、まだ御子孫の方が奈良県の生駒市にいらっしゃると。そちらのほうにはまだ若干ということで、かなり膨大な資料もあるのではないかと伺っております。現在の西校にある資料も、その残されたお子様、お孫さんになるんですか、御寄贈いただいたものかということです。すると、もう少しお願いすれば資料をいただけるのではないか。実際、私も見てきましたけれども、自筆のノートとか辞令ですね、富山の先生に任命するとか、鹿児島先生の任命するとか、辞令がいっぱいありました。資料としては非常に貴重なものだと思います。そういう点もありますし、西校に置いておくよりも、どこか図書館でマイクロフィルム化して見られるようにするとか、そういうことを考えられないか。非常に傷みも激しかったようですので、保存方法についても御考慮いただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（松村治門君） 梅田教育長。

（教育長 梅田幸重君 登壇）

○教育長（梅田幸重君） 御指摘のありましたように、木下先生の著書、成器西小で保存されております。まさに御紹介されたとおり、先生がお亡くなりになってから相当年数が経過しておりますので、傷みも激しい分も多々ございます。勝山市では、勝山の歴史人物の紹介というものに取り組んでおります。木下先生は、その歴史人物にリストアップされておりますので、今後、それらの資料がどのように整理できるか、すべきかといったことについて検討をしながら、適切に保存、保管、あるいはまた紹介ができるような形にできればなというふうに考えます。もちろん、その一つの方法は、最終的には図書館等での展示ということも考えられますので、今後検討させていただきたいと思います。

○議長（松村治門君） 5 番。

（5 番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○5 番（帰山寿憲君） それでは、最後に社会資本の維持管理につきましてお伺いしたい、若干。どうも今お答えの中で、結局、維持管理・更新計画をつくるのか、つくらないのかという点に関しましてどうなのかなど。個々に判断するという状況で、今後、個別でもいいですけど、例えば、建物についてはつくと、道路は無理だと、そう言うんならそれで結構ですから、そういう市としての整備指針かな

にかをもって、明確なものができないかなと考えるわけです。区長とのお話で、そういう傷んだから直していくというのもいいんですけども、一般市民の方にしてみれば、うちの前の道路がそろそろ傷んでくるんじゃないかな、次いつ直してくれるんだろうと、声なき人もいますので、一応市の方がパトロールしているというものの、ある程度そういう更新計画というのは、思いどおりにはいかんでしょうけれども、つくる気があるのかなのか、まずそれ1点。

もう一つ、国がこれだけ明確に打ち出したからには、今後、補助金の増加、予算化されるのかどうか、そのあたりの情報をお持ちでないか。

もう一つ、リフレッシュ工事に関しまして。先日、市民会館のバックヤードに入りまして、ちょうど部長ともお顔合わせしましたけれども、このバックヤードでは市民会館としての機能が半分も出てないなど。ことしまたシエナ・ウインド・オーケストラも来ることで、控室のトイレなんか非常に傷みが激しいと。リフレッシュ工事において、そのあたりの整備というのはどのようにお考えになっているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（松村治門君） 大林建設部長。

（建設部長 大林市一君 登壇）

○建設部長（大林市一君） 今ほどの再質問にお答えをいたします。

まず、道路の維持管理の整備計画と申しますか、再整備についてですけれども、平成22年の6月議会でも私のほうからお答えをいたしましたように、まず幹線道路につきましては、やはり修繕計画というものは立てていかなければいけないと思っております。ただし、現在、市道は440キロ近くございます。そして、舗装率が約87%なので、舗装がしてある道路というのが、勝山市内約380キロございます。それすべてを今、修繕計画を立てると申すのは相当労力が必要となってまいりますので、まず幹線道路からそういった整備計画については立ててまいりたいと思っております。

そして、建物関係につきましても、やはり先ほど申し上げましたように、建物の管理者がまずどういった形で建物を維持管理していくのかという部分について十分検討をしまして、その中から修繕計画というものを逐次立てていきたいと思っております。

○議長（松村治門君） 苺安生涯学習・スポーツ課長。

（生涯学習・スポーツ課長 苺安和幸君 登壇）

○生涯学習・スポーツ課長（苺安和幸君） 再質問についてお答えします。

市民会館のトイレの状況のことで質問をいただきましたので、答えさせていただきます。

現在、市民会館のトイレにつきましては、地下のほうのトイレでございますが、ちょうどホールから地下へ入るトイレでございますが、女子トイレには洋式化のトイレが一つあるわけですけれども、男子トイレがないという中で、今現在、女子トイレのところの洋式化と男子トイレの洋式化を今するという予定でおりますので、そういうことも進めさせていただく予定をいたしております。

○議長（松村治門君） 5番。残り3分です。

（5番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○5番（帰山寿憲君） いいです。一応大体のお伺いしたいことは終わりましたので。欲を言えば、社会資本のそういう整備に、全部今やるとどのぐらいかかるのかなと。要するに社会資本整備にかかるストックというのはちょっと知りたかったんですが、それはまた個別に後でお伺いします。

今後もしいろいろ、ことしは忙しい1年になりそうですけれども、また皆さん方の御健闘に期待をした

と思います。

以上で質問を終わります。